

福島切り捨て政治は許さない！

2016年12月20日
原発ゼロを求める島根の会ニュース
発行:しまね労連 ☎ 0852-31-3396

原発立地県全国キャラバン行動が12月17日松江入り！街頭宣伝と集会



テルサ前で訴える斎藤さん

署名行動には34名が参加、総数87筆の署名が30分で集まりました



「ふくしまの復興と原発ゼロをめざす大運動」の原発立地県キャラバンが12月17日島根原発から10Kmの松江市に入りました。この行動は、原発をなくす全国連絡会と、ふくしま復興共同センターの提起を受け、全国14立地道県で順次行われているものです。

当日は、ふくしま復興共同センター代表の斎藤富春さんが来県、原発ゼロをめざす島根の会や島根原発・エネルギー問題県民連絡会と一緒に、昼のJR松江駅前での街頭署名・宣伝行動、松江生協病院大研修室での集会を行いました。

集会で斎藤さんは、福島の実況について、4町で人口ゼロとなり、8万人超の県民が避難生活を続け、仮設住宅の孤独死、一方的な避難指示の解除と賠償や支援打ち切りなど「福島県民切り捨て政治」の深刻な実態を告発しました。そして、「原発ゼロの必要性を、福島の実況が示している」と強調し、島根原発再稼働反対署名運動の地域からの前進と、政府に向けた全国からの「100万人署名」運動の取り組みの共同を呼びかけました。



福島県一浪江町の現在の姿



いわき市役所玄関入口に書かれた「被災者帰れ」の心ない落書き

11月22日に起きた震度5弱の福島県沖地震では、福島第2原発の使用済み核燃料プールの冷却が1.5時間停止しました。我先に避難する車の大渋滞が起き、ガソリンスタンドにも長蛇の列ができました。放射能モニターシステムも一時ダウンし、測定不能になりました。これが原発事故が起きた5年9ヶ月後の福島の実態です。

島根県の避難計画に、はたして実現性があるのでしょうか？



斎藤さんの報告に聞き入る40名の参加者